岡崎市制 100 周年記念事業
岡崎まちものがたり

秩父宮殿下展望之地記念碑

羽角山の山頂に、「秩父宮殿下御展望之地」と刻印された石碑が建立されている。詳細は不明であるが、石碑は、昭和4年10月（推定）に、秩父宮雍仁親王が羽角山に来られ、展望されたことを記念して建てられたようである。秩父宮殿下は、昭和4年当時には陸軍大学に在学中であった。

秩父宮雍仁親王（ちちぶのみや やすひとしんのう）は、日本の皇族で大正天皇と貞明皇后（同日の誕生日であった）の第2皇子として、1902（明治35）年6月25日に生誕された。昭和天皇の弟宮、今上天皇の叔父にあたる。妃は勢津子（旧会津藩主・松平容保の4男で外交官を務めた松平恒雄の長女）。御称号は淳宮（あつのみや）。身位は親王。お印は若松（わかまつ）。階級は陸軍少将。勲等功級は大勲位功3級。勢津子妃との間に子女はない。1953（昭和28）年1月4日に死没された。

1922（大正11）年6月25日に20歳で成年式を行い、宮家「秩父宮」創立、宮号の由来は、秩父嶺が帝都所在の武蔵国の名山であり、雍仁親王邸の西北に位置したことにちなみ選定された。1928（昭和3）年9月28日、松平節子と結婚された。成婚にあたり皇太后（九条節子）に遠慮して勢津子と改名された。1928（昭和3）年12月に陸軍大学校に入学、昭和6年11月に卒業（43期）された。陸軍大学校の卒業時には、成績優秀であったため慣例に反して恩賜の軍刀を与えてはとの議論が教官の間であった。1931（昭和6）年から第1師団歩兵第3連隊の中隊長を務められた。

・秩父宮殿下御展望之地記念碑（表）

秩父宮殿下御展望之地

・秩父宮殿下御展望之地記念碑（裏）

昭和4年10月　帝国在郷軍人會　上羽角軍人團

秩父宮殿下
展望之地記念碑
20170121

秩父宮殿下